



上野南部 自治協だより

令和8年3月1日 第87号
発行 上野南部地区
住民自治協議会
編集 広報部会
<http://ueno-nanbu.com>



生涯学習支援事業

～迎春の寄せ植え教室～

詳しくは、☞



令和7年12月21日(日)13時30分から、多方面でご活躍の園芸研究家 奥 隆善さんを講師にお迎えして、先生考案の鉢を重ねて立体感をだす「3D寄せ植え」教室を開催しました。

近年の園芸事情やお正月の松、千両のお話などをしていただき、37名の参加者は熱心に聞いていました。

雨の降りしきる中でしたが、楽しく寄せ植えができ、各家の玄関は新年を迎える準備ができたでしょう。



生涯学習支援事業

～干支飾りづくり～

詳しくは、☞



令和8年1月24日(土)13時30分から、上野南部地区市民センターのサークル「手工芸教室」で活躍されている北寺 眞弓さんを講師に迎え、干支シリーズ第3回目となる押し絵の干支飾りづくり教室を開催しました。

今年の「午」の作品は、例年より少し難しい行程でしたが、12名の参加者の皆さんはとても集中して取り組まれていました。

わからないところは教えあいながら、会場には笑い声もあふれ、終始和やかな雰囲気の中で製作が進みました。

完成した作品を手に、皆さんの達成感に満ちた表情がとても印象的でした。



▶▶▶裏面に「地域安全部会の防災備蓄品等点検」を掲載しています

地域安全部会

～防災備蓄品等点検～

詳しくは、👉



令和8年2月1日（日）9時から、上野南部地区市民センターで、部会員が集まり防災備蓄品等点検を行いました。

地域安全部会では年2回、真夏と真冬に点検を実施し、発電機の作動確認（※1 写真）も行っていきます。伊賀市備蓄倉庫、市民センターの倉庫、自治協の防災倉庫、室内の備蓄品置き場の4か所を7月の点検簿をもとにチェックをし、缶詰めなどの賞味期限等も確認を行いました。

ただ、備蓄しているだけでなく、年2回の点検では、きめ細かな確認作業をしていくことで、いざというときにどこに何があるかを確認ができ、災害時の備えとなります。

備蓄品を使うことなく点検作業だけで済んだら幸いです。誰でもわかるように、倉庫には何が入っているかを一覧表で張り出して見える表示を実施しています。寒い中の作業でしたが、災害はいつ起こるかわかりません。いざという時みんなで作れるようにしていきましょう。



【お知らせ】～作品上映会 in 伊賀市文化会館さまざまホール～

上野南部地区出身の呉美保監督の作品『ぼくが生きてる、ふたつの世界』『ふつうの子ども』の上映会が開催されます。「2作品とも”バリアフリー日本語字幕付き”です。たくさんの人に観に来ていただきたいです。」と監督本人からもメッセージをいただきました。心温まるひと時を一緒に過ごしましょう！詳しくはBUNTO 通信 P5もCHECKしてみてください。

伊賀市文化会館開館 35周年記念事業

伊賀市出身 呉美保監督 作品上映会

ぼくが生きてる、ふたつの世界

監督：呉美保 × 脚本：高田亮

ふつうの子ども

監督：呉美保 × 脚本：高田亮

伊賀市出身 呉美保監督 トークショー開催!

「ぼくが生きてる、ふたつの世界」上映 1 回目 12:00～12:30

「ふつうの子ども」上映 2 回目 14:00～14:30

監督：呉美保

2026年 4月11日(土)

伊賀市文化会館 さまざまホール (三重県伊賀市西町3 3240 番地の2)

チケット発売日 2/7

チケット取扱い 伊賀市文化会館 TEL 0595-24-7015 青山ホール TEL 0595-52-1109 電子チケット teket URL: https://teket.jp/5744/62953

「ぼくが生きてる、ふたつの世界」開場 9:30 開演 10:00

「ふつうの子ども」開場 13:30 開演 14:00

前売り券 一般 1 作品 1,200円、2 作品 2,200円 小中学生 1 作品 800円、2 作品 1,500円

当日券 一般 1 作品 1,400円、2 作品 2,500円 小中学生 1 作品 1,000円、2 作品 1,800円

※当日券の2作品は窓口販売のみとなります。 ※各作品の上映にあわせてトークショーを行います。 ※「ぼくが生きてる、ふたつの世界」観劇後のトークショー後、2作品券をご購入いただいた方も、1日ホールから退場していただきます。

ぼくが生きてる、ふたつの世界

親子の物語が、そしてひとりのコソコソの心の軌跡が、点描のように紡がれていく。監督は本作がより年よりの長編作品となる。このみにて先陣をきかす。伊賀市出身の呉美保監督、五十嵐天氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は、正統派の漫遊感、古川亮が、きこえる世界、もどかしい世界、行き先を知らず生きる主人公を体現、自身の経験をもとにして、若者の心を導いた。母、明子役には、ろう者俳優として活躍する志望者、やがて母の想いが、若者の胸にも静かに温かみ、響いていく。心に響く映画を観た。

母と息子、切なくも心に響く家族の物語

宮城県小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれる。祖母、両親は、「大」と名付けて誕生を喜び、ほかならぬ少人数で育てたのは、両親の耳が聞こえないこと、幼い大にとっては、大好きな母の「通訳」をすることも「ふつう」の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、自立も、母の明るささえ遠くなる。心を持って生まれた大は、20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが...

ふつうの子ども

唯土、10才。

上田唯土、10才、小学4年生、両親と三人家族。おなかがいいたらごはんを食べ、いいたらふつうの暮らし。最近、同じクラスの三宅心音が気になる。健聴問題に高い意識を持ち、大人にも話をし、声を上げる彼女に近づこうと、唯土はクラスの問題児、機嫌屋に思われている様子。そんな三人が始めた「環境活動」は、思わぬ方向に転がり出して...